

## 取付説明書

<商品内容> ※サイズの単位:mm

- ① エキゾーストパイプ ×1
- ② サイレンサーボディ ×1
- ③ 六角フランジナット (M8) ×2

※梱包箱の内側に貼り付けています



チタン仕様を取り付けるお客様へ

製品を取り付ける際には、マフラー表面に手垢など、汚れが付着しない様に素手による作業は行わず、必ずきれいな軍手をしながら作業して下さい。また、マフラーに傷を付けない様にウェスやビニールを巻いておくなど、あらかじめ養生をしてから作業する事をおすすめします。

※ 説明書内の写真は試作品の為、実際の商品とはパイプの形状等、一部異なる場合があります。(写真ではMT09の車体、ステンレス仕様の製品で撮影しています。)

※ 作業は平坦な場所でエンジン、マフラーが完全に冷えた状態で行なって下さい。

※ 本製品にはエキゾーストガスケットは付属しておりません。取り付け後の排気漏れを防ぐ為にも車種専用の物をご購入の上、新品に交換して下さい。

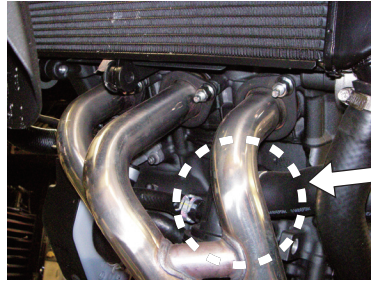
※ ボルト類の組み付け時には、緩み防止の為に“ネジロック剤”を塗布の上、締め付ける様にして下さい。

※ キズ付き防止の為に、マフラー取り付け部廻りの塗装部分にはあらかじめガムテープ等を貼って養生しておく事をお勧めします。

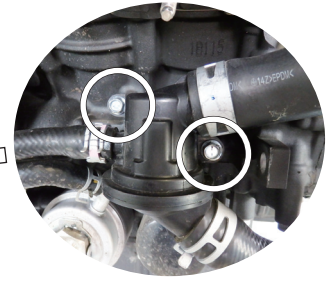
### ① 純正マフラー を取り外します。(純正マフラーは一体型の為、分割出来ません。)



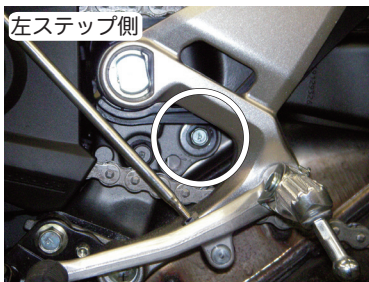
排気ガスセンサーを配線を傷めない様に注意しながらエキゾーストパイプから取り外します。(後で再び取り付けます。)



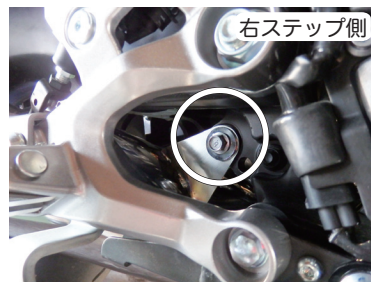
エンジン側固定部のフランジナットを全て取り外します。(後で再使用します。)



マフラー脱着時に引っかからない為にエキゾーストパイプ内側の冷却水ホースの固定を外しておきます。



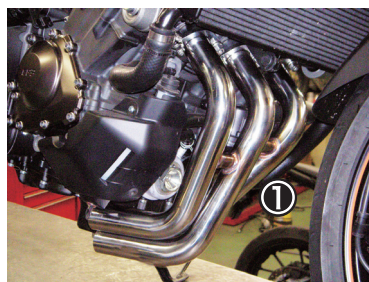
車体左側・ステップ内側に見えるマフラー固定部のボルトを取り外します。(ボルト、ワッシャは後で再使用します。)



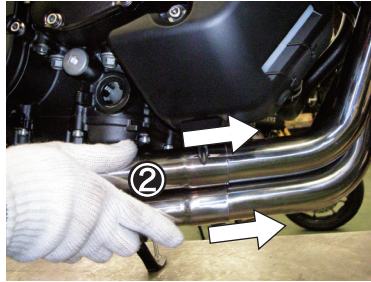
車体右側・ステップ内側に見えるマフラー固定部のボルトを取り外します。(ボルト、ワッシャは後で再使用します。)

マフラー・一式をゆっくりと車体から取り外します。

### ② POWER BOX マフラーを仮組みします。(製品に手垢や汚れが付かない様に軍手を使用して作業します。)



エキゾースト・ガスケットを新品に交換した後エキゾーストパイプ ① をエンジンに仮組みします。(かなり緩めに) 固定には純正マフラーに使用していたフランジナットを再使用します。



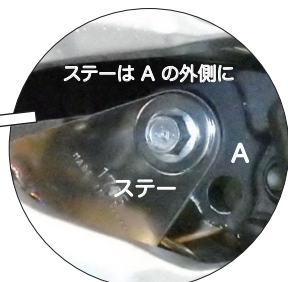
サイレンサーボディ ② を組み込んで行きます。後ろ側のマフラー固定部の位置も合わせながらゆっくりと差し込んで行きます。排気漏れ、水滴の垂れを避けるためにも接合部には液体ガスケットを薄く塗ってから組み込む事をおすすめします。

排気漏れ、水滴の垂れを避けるためにエキゾーストパイプとサイレンサーボディ接合部にはあらかじめ液体ガスケットを塗ってから組み込む事をおすすめします。

サイレンサーボディの差し込み部は作業性を考慮して口径をあえて緩めの寸法にしていますので組み込み後には隙間がある様に見えますが奥に入った所ではエキゾーストパイプと密着する様に寸法を調整して作られています。

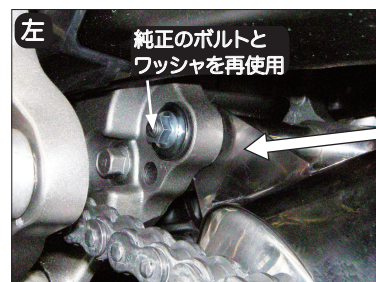


純正のボルトとワッシャを再使用

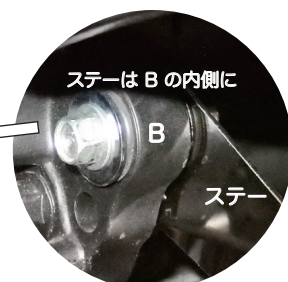


ステーは A の外側に

ステー



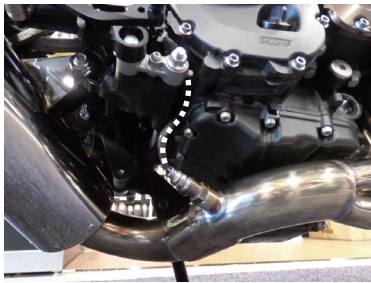
純正のボルトとワッシャを再使用



ステーは B の内側に

ステー

純正マフラーと同じ様に車体側にステーを固定します。左右2ヶ所とも、純正マフラーに使用していたボルト、ワッシャを再使用し、付属のナット③と合わせて固定します。(仮組み状態にしておきます。)



排気ガスセンサーをしっかりと固定します。配線に無理がかからない様に注意しながら車体に沿わせて納めます。



マフラー内側とスイングアームとの隙間、ステップ廻りやチェーンがマフラーと干渉していないか等、良く確認しながら取り付け位置を調整します。(特に転倒歴のある車輛は注意が必要です。) ブレーキペダルを踏み込んだ時のペダル内側とパワーボックスとの隙間もしっかり確認して下さい。写真の車輛ではカラーズ・インターナショナル製のバックステップを装着していますが、純正ステップ装着車輛でも取付方法、確認方法は同じです。



ドライブチェーンの張りは適正な状態を保つ様にして下さい。ドライブチェーンがマフラーに触れ出したらそれは適正な張りの範囲を超えています。すみやかにチェーン調整を行なって下さい。



排気ガスセンサーをマフラーに固定し、カプラーを結合する前にメインスイッチをONにしますと、センサーの異常を感知してメーターの警告灯が点灯してしまいます。一度点灯した警告灯は簡単に解除できません。必ず、マフラー装着を全て完了した後にエンジンを始動する様にして下さい。万が一警告灯を点灯させてしまった場合には専用の機材による点検、解除が必要です。車輛ご購入先のバイクショップに相談して下さい。

### ③ 本締めを行ないます。

各部のクリアランスに問題のない事を確認し、仮組みしていた箇所全てを本締めします。

※ 作業行程①で一旦外しておいた冷却水ホースの固定も忘れずに行なって下さい。

### ④ 作業中にマフラーに付いた汚れや油分を脱脂剤（パーツクリーナーなど）でしっかりと取り除きます。

汚れや油分がマフラーに付いた状態でエンジンをかけて熱が加わりますと、後で落とすのが困難になりますのでご注意下さい。

### ⑤ エンジンを始動し、排気漏れがなく、装着状態に問題の無い事を再度確認しましたら作業終了となります。



重要

- ※ 日頃のお手入れは、基本はたっぷりの水で洗車し、仕上げはパーツクリーナーで。汚れのひどい時にはマジックリンを使用して柔らかい布で優しく拭き上げて下さい。★チタン仕様の場合★ 研磨剤の入ったワックス等は一切使用しないで下さい。チタンブルーの色が落ちてしまいます。乾拭きも細かい拭きキズが付きますので避けて下さい。一度落ちてしまった色は再着色は出来ません。
- ※ 安全にご使用いただく為にも取り付け状態やボルトの緩みのチェックは定期的に行なって下さい。
- ※ 装着直後は、しばらくの間マフラー内部に残った油分により、臭いや排気出口から白煙が発生する場合がありますが、徐々に収まっていきます。
- ※ 製品によっては、サイレンサーやマフラー本体に小さな穴を空けている事があります。これは水抜き用に設けられた穴ですので、特に問題はありません。
- ※ 本製品は構造上使用状況によってアフターファイヤーが発生する場合がありますが、性能や耐久性に問題が生じるものではありません。
- ※ しばらくお使いいただく内にマフラー接合部から排気漏れや水滴がたれてくる事があります。この事は性能に大きな影響を及ぼす様な異常とはなりません。排気漏れが多くなった場合には再度接合部に液体ガスケットを塗って組み直して下さい。

※【グラス・ウールは消耗品です!】 マフラーの使用期間・使用状況によっては、音量が大きくなる事があります。使用距離:10,000km毎を目安にサイレンサー内部消音材(=グラス・ウール)の交換をお勧め致します。(詳細は弊社までお問い合わせ下さい。)

#### 車検時のご注意点

近接排気音量の測定時には水温が極端に上がらない様にご注意下さい。水温上昇によってオーバーヒートになりますと、メカノイズが急激に増え、測定値が規制値を超えてしまう恐れがあります。

上記内容を良くご理解いただいた上でご使用下さい。